

令和４年度総務常任委員会行政視察報告書

期 日 令和４年１１月１６日（水）～１７日（木）

視察地 大阪府和泉市（１６日午後） 兵庫県高砂市（１７日午前）

視察者 総務常任委員会

委員長	宮岡治郎	副委員長	大野 勉
委 員	安道佳子	委 員	向口文恵
委 員	吉田賢一	委 員	細田智也
委 員	内村忠久	委 員	横田淳一

所管部次長

企画部長	岩田正博	総務部次長	荻野勝弘
市民生活部長	関谷佳代子	危機管理監	栗原庸之

事務局（随行）

局長 晝間忠利 副主幹 須藤 剛

視察事項

大阪府和泉市 「新庁舎整備事業について」
兵庫県高砂市 「まつりと市の係わりについて」

■ １１月１６日（水） 大阪府和泉市（いずみし）

地理 大阪府南西部に位置し、堺市の南に幅広く接する。面積は８４．９８㎢で、入間市の約１．９０倍だが、人口は１８３，１４８人で、入間市の約１．２７倍と近い。市の形状は、北北西から南南東にかけて長く、東寄りの丘陵は南に行くほど高くなる。河川は、ほぼ北西側に向かって流れる。西寄りの大阪湾側には泉大津市と忠岡町が在るため、市域は海に面せず完全に内陸となる。

歴史 古代の遺跡が多く出土する。律令時代、現在の大阪府南部一帯に相当する旧和泉国の国府が置かれた。「いずみ」の名の起こりの「和泉清水」を擁する神社も存在する。古来、京の都から摂津を抜けて紀伊に至る熊野街道沿いでもあった。

江戸時代からは、「和泉木綿」の集散地で、明治以降は織物のまちに発展した。

1889年の町村制発足当時に、現在の市域は12か村となる。1933年に、国府村など3つの村の合併で和泉町となる。その後、1956年に和泉町と6か村（1903年、7村の内2村が合併して1村となっていた）の合併で、和泉市が成立した。更に、1960年、1町（1943年、1村が単独で町となっていた）と1村の編入合併で、現在に至っている。すなわち、府中村→国府村→和泉町→和泉市が中核となって合併を繰り返した。

1960年代後半は財政難で、近隣の自治体との合併を模索したが実現せず、「財政再建団体」の指定を受けた時代もあったが、1977年、堺市の中百舌鳥駅からの泉北（せんぼく）高速鉄道が、市境の光明池駅まで開通し、団地の宅地造成が進んだ。

1995年、泉北高速鉄道が市内の中央部に位置する和泉中央駅まで延伸した。ニュータウンの『トリヴェール和泉』の宅地開発が本格化し、大阪のベッドタウンとして人口は急増した。同時並行して、市南部に工業団地『テクノステージ和泉』が設置され、現在では、郊外型工業団地として有数の規模を誇る。

2018年、和泉市立病院が新築移転され、和泉市立総合医療センターとなり、24時間受け入れ可能な救急医療が実施された。和泉市は、この整備事業をDB（デザインビルド 設計・施工一括発注方式）の成功例としている。

現状 市庁舎は大阪湾寄りの忠岡町との境付近に位置するが、人口の重心は内陸の和泉中央駅辺りに寄っている。急速な人口増加も静止状態から減少傾向にあるが、ニュータウン等の宅地開発が北の堺市よりも後発であり、高齢化率は25.4%（2020年）と、比較的緩やかである。

一方、現市庁舎に近いJR 阪和線の和泉府中駅東口は、駅周辺再開発が2015年に完成。先行して完成した再開発ビル内には、市立図書館等も入っている。

視察事項 「新庁舎整備事業について」

建設地 和泉市府中町二丁目7番5号

敷地面積 13、616.59㎡
延床面積 庁舎等 11、991.69㎡
構造種別 免振構造 鉄骨造 7階建 一部 CFT 造（コンクリート充填鋼管構造）
7階は室外機等の置場で、ペントハウスの形態。実質は6階建て

整備事業に伴う工事費の内訳（令和4年10月時点）

新庁舎整備事業（DB（デザインビルド））	6,733,241,000 円
新庁舎整備付帯工事（別途発注 建築）	720,240,400 円（注）
新庁舎整備付帯電気設備工事（別途発注 電気）	197,554,500 円
新庁舎整備」付帯機械設備工事（別途発注 機械）	107,510,700 円

（注）旧3号棟の改修工事、耐震補強工事、渡り廊下工事等はDBに含まれない

上から見てL字型の重量鉄骨造りの6階建てで、6階は面積が少ない。庁舎とは構内道路を挟んで別の敷地に、立体駐車場と、地上が交通広場のピロティ構造（1階が柱だけ）で、2階が「飲食物販棟」の施設が、建設工事中である。これらは完成すると庁舎2階と、構内道路を跨いで超える、広大な人工地盤で結ばれる。地下は免震構造のため、地下室は無い。1階と2階は、上り下りのエスカレーターで結ばれている。

新庁舎のコンセプトは、災害に強い庁舎、明確なセキュリティ区画、誰もが使いやすい庁舎、イベント・市民活動の場の整備、自然・エネルギーの活用、省エネルギーの推進、である。

また、職員一人当たりの面積は、旧庁舎の1.33倍となった。

旧庁舎建物の概要

1958年に建設された旧庁舎は、建増しや増改築で、動線が入り組んでいた。

6つの棟が有り、通路で結ばれているところもあった。建設年は、1958年から1998年までであり、2棟は先行除却し、1棟は存続して活用した。

旧庁舎の駐車場の状況

庁舎敷地内の駐車場は38台分に過ぎず、西側の道路を隔てた借地に来庁者用で165台分が最大規模で、南側に公用車用38台分と30台分、北西側に来庁者用18台分であった。

旧庁舎の借地の状況

市役所本体の借地が4筆あり、延べ8、144.03㎡で、平成27年度の借地料が、38,102,317円であった。

庁舎敷地外の、公用車・来庁者駐車場の面積が延べ6,152.1㎡で、平成27年度の借地料が35,637,262円であった。

平成27年度時点で、借地料の合計年額は、約7,370万円であった。

このうち、市役所本体の借地を平成28年度に購入した。購入価格は、684,527,477円で、年間借地料の約18倍である。

庁舎整備の経過

平成24年10月 市議会に『庁舎整備特別委員会』（委員9名）を設置し、11月から『現地建替え』で検討を始めた。

その後、『耐震改修』で検討し直したが、免震改修・仮設庁舎等で、事業費約21億円が必要との調査結果が出て、『建替え』で再検討する事に戻った。同時に「来庁者の利便性」も勘案し、平成27年6月に建設場所を『現在地』での建替えと『和泉中央住宅展示場』に新築移転することに絞りこんだ。

※ 住宅展示場は駅の西北側の近隣に位置していた。

平成27年9月、市は、『現在地』とする考えを議会に報告した、これに対し、議員提案による『和泉市庁舎整備に関する住民投票（案）が可決』した。市民説明会、公開討論会を実施した上で、平成27年11月、庁舎整備に関する住民投票を実施した。

【投票結果】有効投票数 6万9,385票（投票率48.82%）

○現庁舎での建て替えに賛成 3万3,213票

○和泉中央住宅展示場跡地への新築移転に賛成 3万6,172票

※移転が過半数となったが、市は現庁舎での建て替えの方針は変えず。

平成27年12月、市役所の位置を定める条例の改正には、地方自治法4条で、
議会において、出席議員の3分の2以上の者の同意が必要であり、
過半数の改正賛成があったが、条例改正には至らなかった。

平成28年12月、補正予算の議案審議で、市庁舎の借地の用地取得、

基本計画策定事業、新庁舎整備基本方針（案）の内容が報告された。

平成29年4月～6月、市民ワークショップを開催した。（6回開催）

同年 6 月、新庁舎整備基本方針の策定が報告された。

同年 9 月、耐震補強で存置する棟の補強設計委託や、

除却する棟の除却設計委託等の、補正予算が審議された。

同年 11 月、基本計画（案）の策定が報告された。

同年 12 月、基本設計策定業務委託、スケジュール（案）が報告された。

平成 30 年 1 月、新庁舎整備基本計画の策定が報告された。

3 者が参加を表明したが、うち 2 者が辞退し、事業者選定委員会を経て 1 者を決定。

平成 31 年 3 月、公募型プロポーザル選定方式により事業者が決定した。

令和元年 6 月、起工式 9 月市議会『庁舎整備特別委員会』を終了。

令和元年 12 月、本体工事が着工された。

令和 3 年 4 月、新庁舎が完成した。5 月、落成式・開庁。

視察のポイント

（１）窓口の配置状況

関連した手続きの窓口の近接配置

⇒ 1 階の市民室、保険年金室、税務室、指定金融機関、会計室がまとめられて配置されている。戸籍届出、住所変更、死亡後の手続きの案内、パスポート、証明書交付、印鑑登録が、一つのコーナーに配置されていた。マイナンバーカードは、少し離れていた。保険年金室は、国保、国民年金、後期高齢者医療保険がまとまり、隣に税務室がある。通路を隔てて、指定金融機関と会計室がある。

2 階は福祉系の窓口で、建物の基本的な構造で市民本位の配置となっている。

3 階から 5 階は、職員の事務所的な配置で、許認可などで業者が訪れる。

3 階は、市長室に会議室、庁議室、公室などで、災害発生時など指揮命令の拠点として、対策本部を設置する。

6 階は一部屋上庭園で、休憩スペースとして自由に利用出来る。その分面積は少なくなり、フラットな議場を中心に、会派控室が充実し、市民相談向けの個室が、割と広いエレベーターホールの近くに 2 室あり、プライバシーに配慮されていた。

（２）待合、相談、打ち合わせスペースの確保

待合スペース：福祉・税の窓口では、充分には確保されているか

相談の個別ブースや相談室等：プライバシー保護

打ち合わせスペース：市民協働の面で必要

⇒ 1階・2階の窓口前の待合スペースは十分に広い。2階には、キッズコーナーもある。旧庁舎では相談室が無く、新庁舎では充実を図った。

6階の議会フロアでは、エレベーター近くに、一般市民と議員の『応接室』が3室配置されていた。そのうち2室はかなり小さく、個人相談に適しているかと思われた。

(3) セキュリティエリアの設定

個人情報等の漏洩を防ぐ為、職員以外が入れない執務室

対応困難者が、市長室周辺へ侵入出来ないようにする。

職員動線と市民動線の分離等

(4) DXの推進による執務室のスリム化（フリーアドレス化）

書類の電子化（ペーパーレス化）

DX化が進み、フリーアドレス（座席の共用）を導入しているか

⇒ 行政手続きのオンライン化には、まだ対応していない模様。

(5) 市民用スペースの配置

市民協働棟のような、市民が気軽に利用出来るスペースがあるか

※ 1階の玄関の左脇に、『マルチホール』はあるが。

※

(6) 既存施設活用による利便性

既存庁舎C棟と同じく、既存庁舎を活用しているが、来庁者に分かり易く、建物間を移動しやすい工夫があるか

⇒ 新本庁舎の北西側、玄関から見て奥に位置する旧庁舎『3号棟』を、改修耐震補強の上で活用している。市職員の棟で本庁舎と渡り廊下で接続するが、一般市民は立ち入らない。内装や外装は更新し新館かと思間違える程だが、廊下の配線跡の起伏や、和式トイレの存続など、古い部分も残っている。

(7) 職員の休憩スペース等

来庁者の多い窓口では、職員が交代で休憩を取っているが、職員用の休憩スペースの

配置状況は。

⇒ 職員用の更衣室、シャワー室が設置されるなど、別棟に十分な空間がある。
旧庁舎と比較して、更衣室は男子で2.06倍、女子で1.49倍と大幅に増加した。研修室は、隔壁が移動可能で、柔軟に使用できる形態となっている。

(8) 市議会議場は、傍聴者へどのように配慮しているか

⇒ 傍聴席は議席に近くて広く、『親子席』や、会話の見える化システムを導入。

視察後の意見交換会（要約）

- ・ 職員体制が、専門職を中心にしっかりしていた。
- ・ DB 手法だが、分離発注もあり、地元業者への配慮もある。
- ・ 執務スペースの奥にバックヤードがあり、印象的だった。
- ・ 職員の意見も反映し、一人当たりの床面積が旧庁舎よりも増えている。
- ・ 市民目線で、親切丁寧な作りがされている。
- ・ 庁舎周辺の動線で、安全で利用しやすい配置がされていた。
- ・ 防災面で、雨水を溜めて4日分の雑用水の確保がされていた。
- ・ 財政面で、市町村役場機能緊急保全事業債が活用されていた。
- ・ 来庁者が少なく、来なくても済む市役所が、DX等により進んでいる。
- ・ 各室が効果的に配置され、市民に分かり易い。
- ・ 災害対策本部が市長・副市長室と同じフロアで、災害対応の観点から重要。
- ・ 1階のマルチホールは、災害発生時に、市民の一時避難場所として有効。

■ 11月16日（水） 兵庫県高砂市（たかさごし）

概要 面積は34.38km²（入間市の約0.77倍）、人口は86,185人（入間市の約0.60倍）。謡曲の『高砂』で知られる。

地理 兵庫県の中南部で瀬戸内海の播磨灘に面する。北は中国山地の支脈。播州平野の中央部で、東を加古川が流れる。播磨臨海工業地帯の中核を形成している。

市の発展の拠点で視察地の『高砂町』は、715年頃の編纂の『播磨風土記』や、770年前後成立の『万葉集』で、『南毘都麻島』（なびつまのしま）と記録・記載される

様に「島」であった。後になって加古川の土砂の堆積で陸続きとなったもので、埋め立て地では無い。江戸時代初期に『堀川』を開削して加古川の水を導いて新港として築かれた。

歴史 江戸時代は、加古川の改修と港の整備により、播州の穀倉地帯の年貢米を大坂へ運ぶための集散地として、また北前船の寄港地として栄えた。明治維新後、高砂町は港町としては衰退したが、碁盤の目の町割りは残った。

1889年の町村制発足時には、現在の高砂市地域には、高砂町、荒井村、曾根村、伊保村、阿弥陀村、米田村、北浜村が成立した。1913年、曾根村は曾根町となり、1928年、米田村は米田町となった。1954年、高砂町、荒井村、曾根町、伊保村の2町2村の合併で、高砂市が成立した。1956年、阿弥陀村と米田町の大部分が編入された。（米田町の一部は分割され、東の加古川市に編入した）1957年、北浜村を編入し、現在に至る。

視察事項 まつりと市の係わりについて

たかさご万灯祭（たかさごまんとうさい）の沿革

2006年（平成18年）9月1日に、高砂市の旧市街、高砂地区『高砂町』の約102haが、兵庫県の『歴史的景観形成地区』に指定された。これを記念し、同年『高砂市観光協会』の主催で、『高砂みなと堀川まつり』を開催した。

2007年より、『たかさご万灯祭』に名称を変更して開催した。これが第1回の『たかさご万灯祭』で、10月27（土）・28日（日）に開催した。

2008年の第2回より、シルバーウィークの9月の土日に開催した。2019年の第13回までそのまま続いた。

2020年、2021年は、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止。

2022年は、14回目の開催であり、当初、9月17日（土）・18日（日）の開催予定であったが、コロナ感染症拡大により延期され、11月12日（土）・13日（日）の開催で実施した。18時点灯、21時消灯であったが、13日（日）は雨天のため中止であった。

〔目的〕

歴史的景観形成地区である高砂町内周辺にて、市の魅力発信、観光振興及び歴史文化

の継承を図るとともに、関係人口の獲得を目的とし、実施。

〔実行委員会の構成団体〕

高砂市、高砂商工会議所、（一社）高砂市観光交流ビューロー、高砂町連合自治会、高砂地区まちづくり協議会、高砂漁業組合、高砂神社秋祭り保存会、高砂染あいの会、高砂海文化 21C、BAN-BAN ネットワークス（株）、（一社）高砂青年会議所、ガールスカウト 71 団、大崎邸、山陽電気鉄道（株）、兵庫県東播磨県民局、兵庫県加古川土木事務所

〔団体の役割〕

たかさご万灯祭事務局は、高砂市と高砂商工会議所に置かれている。それぞれの役割分担は、高砂市が包括的な立場で、イベントを取り仕切り、商工会議所が協賛金のお願いと収受を担当していた。また、観光交流ビューローは、問い合わせ等の対応を担っている。

〔会場の高砂町〕

古くから人が定住し、高砂神社や十輪寺等有る。江戸時代初期に堀川を開削し、加古川の水を導いて港が形成された。碁盤の目のような、東西南北に交差する道路の「町割り」となり、商人町、職人町、漁師の町も成立した。

近代でも、製紙、紡績などの産業発展を背景に、高砂商工会議所や旧高砂消防会館、出汐館等の歴史的建造物が多くあり、ライトアップで独特の雰囲気醸し出し、『祭』の会場となっている。堀川では、多くのヨットが係留されている。

なお、高名な憲法学者の美濃部達吉氏の出身地で、高砂公民館に展示コーナーがある。

〔内容〕

2022 年は、例年と同じく「1 年に 1 度 星が降りてくるまちへ・・・」をテーマに開催され、灯を基調とした以下の催しを実施された。

○町並み・歴史的建造物のライトアップ

高砂商工会議所 1937 年に建てられた旧高砂銀行本店の建物。鉄筋コンクリート造りで、柱に装飾やレリーフを施している。

十輪寺 境内や墓地が広大で、総墓所として多くの地元民の菩提寺となっている。

本堂（県の重文）も大きく、ジャズ演奏とのコラボで相乗効果がある。

魚町倶楽部 旧神戸製紙の外国人お雇い技師の住宅で、木造 2 階建て。

南ヨーロッパ風の質素な洋館建物だが目立つ。

出汐館 1936年に建てられた鐘淵紡績高砂工場の役員の倶楽部で、筒形でアー
ルデコ調の部分もあり、現在はカネカの社員の厚生施設。

三連蔵 明治初年の築造で、屋根の破風が三つ並ぶ特徴的な構造の蔵。

県の景観形成重要建造物の指定を受けている。

片岡医院 1937年に建てられ、窓や玄関が木枠格子のレトロな風合い。

屋根は平坦で、建築家フランク・ロイド・ライトの影響を感じさせる。

梅ヶ枝湯 1943年に造られた銭湯で、現在も薪で湯を沸かし営業中。

木と煉瓦とモルタルの混構造の建物で、煉瓦の煙突が高い。

申義堂 江戸時代後期の学問所を復元した建物。 美濃部秀芳が教授を務めた時期
もあり、高砂の庶民が学んだ郷学。

高砂神社能舞台 江戸時代に建てられた舞台を、2013年に再建したもの。

広い境内にせり出す位置にあり、多くの観衆を集められる。

○路地キャンドル

町内路地にキャンドルを並べて、幻想的な空間を演出する。 歴史的景観形成地区
を中心に延長距離約6kmに及ぶ。道路がくまなくキャンドルで埋め尽くされ、碁盤の
目の街並みなので、キャンドルが2列に平行した直線上に並ぶ。

通常では、赤穂市に近い土地柄であるためか、『赤穂浪士』の四十七士の、それぞ
れの武士の『討ち入り姿』が、キャンドル毎に描かれている例もあった。

○ジャズギャラリー

4会場で開催 町中でのJ a z zとなり、公式では無いが、『たかさご万灯祭』を
英語で、Buddist Lantern & Jazzfestival のタイトルで紹介するインターネットの
動画サイトがある。

十輪寺 通常では、本堂正面の高欄の上に、二列の配置でジャズバンドが居並んで
演奏する。階(きざはし)下の境内には椅子席が並び、多くの聴衆で賑わう。

他に、善立寺・堀川（工楽家旧宅の駐車場）・魚町倶楽部

○楽市

〔高砂楽市〕銀座商店街 次郎助町商店街

〔堀川楽市〕工楽家旧宅の駐車場・高砂漁協

○灯りの会場

和みの灯り会場

高砂神社で、約3,000灯のキャンドルで境内を装飾する。

縁結びの神社で、恋愛を主に、願い事を描いたキャンドルカップの献灯も出来る。

夢の灯りの会場

出汐館前の公園をLED等で装飾する。ミニ・プロジェクションマッピングの映像投影を実施した。

通常では、市内学生や実行委員会、県立フラワーセンターの灯火のオブジェが夢の世界を演出した。一面の青色の灯りで海をイメージする場所もあった。

2019年の例では、大規模なプロジェクションマッピングの映像投影があり、建物の側壁への投影と同時に、地面への投影では子供たちが楽しんで、画期的な企画であったと思われる。

水の灯りの会場

堀川（運河）でヨットのセール（帆）をLEDで装飾する。

結びの灯りの会場

工楽家旧宅裏庭をキャンドル、網で結びをテーマにした装飾。

○その他

旧高砂消防会館 コーラスコンサート

花井家住宅 土間が広くフリーマーケット、高砂染の展示販売があり、奥の裏口まで通じて長く続き回廊（ギャラリー）の形態でもあり、秋祭り写真展示がある。
また座敷にてお茶席が設けられている。

申義堂 ライトアップ、キャンドルカバーのワークショップ

大崎家住宅 和音楽のコンサート

※明治末期の築造で材木商の隠居家、2013年に耐震補強の上で保存。

高砂商工会議所 駐車場で青年部等による模擬店

2022年は、伝統的な建物のライトアップは、十分に実施された模様。

◇同時開催『東はりま魅力発見市』

〔コロナ禍前の内容〕

○高砂駅前広場では、小編成のジャズステージの演奏を、テーブル席の客が鑑賞する。

○高砂神社には常設の能舞台があり、狂言の上演があった。

○松宗蔵の中が公開され、琵琶の演奏と詩吟で、頼山陽の『川中島』が演じられていた。※1823年築造の米蔵を再建

○水の灯りの会場は、「灯の集積会場」で、通常ではヨットレースの表彰式を兼ねて、

瀬戸内海一円から、万灯祭に集まるヨットが、ライトアップされた。舞台では、ゴスペルのコーラスの演奏もあった。

○旧高砂消防会館では、アラブの舞踊が演じられた。

市のかかわりについての、事前の質問に対する答弁

補助金について 市から実行委員会へ 1,500,000 円の補助金が出ている。この補助金は、安全対策（警備費経費、案内板費用）に使用される。県からは、『地域活性化イベント事業』として 600,000 円が出ている。

更に、高砂商工会議所と一般社団法人高砂市観光交流ビューローから『支援金』、各企業・団体から『協賛金』が出ている。（予算額、約 5,100,000 円）

広報について ポスターは、山陽電鉄を中心に、関西私鉄の主要駅に訳 200 枚、山陽電車・京都市内バスの車内吊りに 450 枚を、無償で掲示していただいている。

その他、県、市の関係各所、県内道の駅 35 か所へ、掲示を行っている。

新聞各社へのプレス発表、地元ケーブルテレビ・ラジオの取材等の PR を行っている。

最近大きな影響があるのは、イベントのポータルサイトと考えられている。ウオーカープラス、旅ナビ等があり、ヤフーで『たかさご万灯祭』を検索すると、約 50,000 件ヒットする。ジャズの出演者の SNS（会員制交流サイト）もある。

警備体制について

警備員 35 名、スタッフ約 20 名で警備する。スタッフについては、各会場に実施責任者を置く。会場内に本部を設置し、警備員、看護師、市の職員を配置する。

警察については、「警備計画書」を地域課と交通課に提出し、当日の警察は巡回警備のみを実施している。各日終了後に実行委員会が警察の地域課に参加人員等を、電話で報告している。現在まで大きな事故は無い。

ごみの処理について

実行委員会で、ごみ収集業者をお願いしている。会場内の 4 箇所にゴミ集積場を設け、時間を決めて収集に回ってもらう。基本的には、イベント終了後の 1 時間～1 時間 40 分内に収集。その他は、スタッフが会場を巡り、ゴミの収集を行う。

※ 2022年は、コロナ禍という事もあり、「食べ歩き」を禁止し、飲食スペースを作り、飲食スペース内に、ゴミステーション（ゴミ箱）を設置し、職員を配置して、ゴミの収集を行った。

視察後の意見交換会（要約）

- ・音楽をジャズに限定する等、コンセプトがしっかりしていた。
- ・開催エリアも年々増え、まつりが広がっている。
- ・広報についても、鉄道にポスターを掲示するなど、発信力が強い。
- ・人が集まる場所を分散し、コロナ禍における祭りの有り方として参考になった。
- ・伝統文化のある祭とコラボせずに、しっかりと棲み分けがされている。
- ・市、商工会議所、観光交流ビューローが、それぞれ役割を分担し、協力しあっている。
- ・市外から多くの方を呼び込めるように、鉄道会社と上手く連携が出来ている。
- ・『入間万燈まつり』の警備について参考になった。
- ・夕方から開始される祭りで、多くの人が集まる工夫がされていた。

高砂市の新庁舎の案内も受けましたので、以下に記述します。

高砂市の新庁舎について

旧庁舎は1957年の建設で老朽化が激しかった。耐震診断でも「震度6で崩壊、または崩壊の危険性」となった。2014年から建替えを検討開始した。

2018年10月建設工事着工、2019年10月分庁舎完成、2021年9月末本庁舎完成、11月中旬に業務を開始した。来庁者用駐車場は、2022年12月下旬工事完了の予定である。

設計コンセプトは、謡曲『高砂』の尉（じょう）と姥（うば）をイメージした、楕円の半円形の本庁舎と台形の分庁舎の、2棟構成となっている。

総事業費は、約60億8千万円で、本庁舎は鉄骨4階建てで、延床面積約9,560㎡となっている。

地下には免震装置を導入し、屋上には非常用発電機の完備等、災害対策を優先し、隣接する二級河川からの浸水に備えて敷地を2mかさ上げした。

緩やかな鉄骨の曲線と大きな窓のデザインが特長で、庁舎内部が自然光で明るく、東

側全面が高断熱ガラスで覆われている。

2階から4階、更に屋上のペントハウス状の建屋までが吹き抜けで、『エコボイド』と言って、空気を循環させ空調の負荷を軽減している。

1階と2階は市民利用の多い部門、3階は工事等の事業部門、4階は災害対策や総務部門を配置した。

窓口は申請者・相談者の両脇にそれぞれに仕切りがあり、プライバシーに配慮している。

受付では上部に設置したモニター画面で、手続ごとの混雑状況が分かるよう、「お待ち人数」を表示している。更に、番号札はQRコード付きで、スマホで読み取ると、離れていても混雑状況が確認出来る。

2階では子育て関係窓口が集約され、市民にとって利便性が高い。待合スペースにはキッズコーナーが置かれている。更に、幼児検診も出来る健康教室もある。

分庁舎は、1階が食堂、2階が議会フロアとなっている。本庁舎からは1階にも2階にも連絡通路がある。

高砂市新庁舎についての、視察後の意見交換会（要約）

- ・庁舎が明るく、カウンターに相談ブースが設けられている。
- ・議員が市民と応接する場所が確保され、入間市の新庁舎整備の参考になった。